

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 38

区分 感染症別の対策(ケジラミ)

【質問】

高齢の寝たきり患者に寄生しているアタマジラミについて、病院施設内における対策を詳しく教えてください。

【回答】

1. 患者の移動について

基本的にシラミは軽度の接触では伝播しません。そのため、検査などで病室外へ移動することに特に制限はありません。

2. 感染予防策について

標準予防策に加えて接触予防策の適用が基本となります。手袋やエプロンなどの个人防护具は、その都度、使い捨て使用とすることが望まれます。

3. 駆除医薬品について

外用薬として、スミスリンシャンプーがあります。スミスリンはシラミの卵には効果がありません。シラミの卵のふ化する期間が約1週間ですので、10日間から2週間は繰り返し使用するのが良いとされています。

使用法は、頭皮全体に泡立てて、5分後に洗い落として使用します。3日間隔で、最低4回繰り返し使用することで、シラミの成虫、幼虫および生き残った卵からふ化した

幼虫がいなくなります。

4．患者が使用した物品やリネン類の取り扱いについて

物品や機器に付着しているシラミは、物理的に駆除することを基本とします。

マットなど、清拭しかできないものについては、一般的には通常の清掃で十分であると考えます。

リネン類や布団などは、熱湯消毒（50℃以上10分間）、洗濯後のアイロン、乾燥機使用による熱処理を基本とします。

シーツ交換の頻度は、標準的な交換回数とし、汚染のある場合はその都度交換する対応で問題ありません。

5．退室後の病室清掃について

アタマジラミは、人から離れて吸血しなくても、衣服やシーツなどで3日間程度は生存できるとされています。病室内の床、畳、ソファなどを、掃除機で丁寧に清掃し、物理的に取り除くことが基本となります。

6．患者家族への指導について

アタマジラミは、主に、髪の毛との接触により感染します。そのため、枕、枕カバー、ブラシ、頭を拭くタオルなどは患者専用とするよう指導します。

また、部屋、特にベッド環境を清潔にさせていただき、リネン類や衣類の洗濯については、上記の熱処理を施すかドライクリーニングを行うよう指導してください。

《参考文献》

荒川創一：性感染症 診断・治療 ガイドライン2016,日本性感染症学会誌,第27巻第 1号

満田年宏：感染症専門テキスト,日本感染症学会誌,南江堂,2011

日本皮膚科学会：疥癬診療ガイドライン(第3版),日皮会誌125(11)2023-2048,2015